

**Zambia**

学校名：八王子市立上壺分方小学校

氏名：栢之間 倫太郎

〔担当教科：〕小学校全科

- 実践教科等：総合的な学習の時間
- 時間数：17 時間
- 対象生徒：第6学年
- 対象人数：29人（学年87人）

1 単元名 伝えよう！みんなで目指す SDGs

2 単元の目標

ESD の視点に立った学習指導で重視する能力・態度（国立教育政策研究所が例として示したもの）

- ・世界の目標であるSDGsへの関心・理解を深め、これからの未来を生きる自分や日本の進むべき道を主体的に考える態度を養う。（進んで参加）（つながりの尊重）
- ・収集した情報からSDGsに対して自分の貢献できることを考える中で、グループで協力し、話し合うことを通して、協同的に課題への解決策を考える能力を養う。（他者と協力）（コミュニケーション）（計画性）（多面的・総合的）

3 資質・能力育成に向けた授業づくりの視点（国立教育政策研究所・2014）

- | | |
|-------------------------|--------------------------|
| 1 意味のある問いや課題で学びの文脈を造る | 2 子供の多様な考えを引き出す |
| 3 考えを深めるために対話のある活動を導入する | 4 考えるための教材を見極めて提供する |
| 5 すべ・手立ては活動に埋め込むなど工夫する | 6 子供が学び方を振り返り自覚する機会を提供する |
| 7 互いの考えを認め合い学び合う文化を創る | |

（本時において）

- ・自分たちの身近な鉛筆を切り口に、SDGsを連想していく。【1】【4】
- ・個人で思考する時間をとった後、グループで共有し、話し合いをすることで、多角的な考えを持つ。【2】【3】
- ・正解のない課題であることを強調し、どんな意見にも価値があること、小さな考えからも思考を膨らませる重要性を意識させ、話し合いを行わせる。【7】
- ・グループでの話し合いの後に教室前方に集まり、各グループの話し合いの内容を可視化した紙を黒板に張り付けて共有することで、さらに多様な考えを生み出す。【2】【7】
- ・「伝える力」の良い面と悪い面を考えさせ、SDGsを調べ、伝えることの意味をつかむ。【1】

4 単元の指導について

（1）教材観

本校の設定する、総合的な学習の時間における国際理解の領域の「世界と日本のつながりを考えよう」を基に、本単元を展開した。平成29年度の本校教育計画においては実施時期が1月から3月であり、実施時予定時数も12時間のみであったが、全体での協議のもと、9月からの実施および17時間への時数拡大とした。

総合的な学習の時間において重要な要素となる「横断的・総合的な学習」の実現のため、本教材で学習する内容を他教科とも関連付けることを意識した。SDGsの17のアイコンをラミネートして黒板にすぐに掲示できるようにし、社会科などの教科でも関連する事項を取り扱う際は張り付けるなど、持続可能な開発という課題意識をもって学習に取り組む機会をできる限り確保した。また、「探求的な学習」の実現のために2人～4人の小グループでの調べ学習を基本とし、全員が主体的に課題に取り組むことができるよう配慮した。

（2）児童観

本学級の児童は、本単元のように世界の課題について調べたり、考えたりした経験が少ない。そのため、本単元の第1時においては、しっかりと基本事項を確認するとともに、なぜ世界の課題を調べるのかという動機付けを行う必要がある。また、事前に行った聞き取り調査では、世界の課題につ

いて新聞やテレビなどのメディアで聞いたことがある児童は多いものの、内容について考えたことがある者、調べたことがある者は非常に少なかった。そのため、本単元の内容は世界の課題へと思考を広げるきっかけであり、その後の人生にも大きな影響を与えるものであるため、意義は大きい。固定観念や偏見を生まず、世界について考える姿勢とそれを支える力を養うため、グループやクラスでの話し合いの機会を多く持ち、多角的に判断できるよう配慮した。

また、第5学年の総合的な学習の時間では、福祉をテーマに今回と同様に調べ学習と発表を行った。そこで児童はポスターセッションとして、各回3人の児童を対象に5回の発表を行い、クラス全体として発表への成功体験を得ている。今回はその経験を踏まえ、対象をクラス全体に広げ、また発表の中に聞き手に考えさせるようなアクティビティを取り入れることとした。前年の発表の良かった点を想起させながら、さらに発表技術を発展させられるよう、指導を意識した。

(3) 指導観

本学級の中には話し合いの中で自分の意見を持ち、それを伝えることに苦手意識を持つ児童が少なくない。そのため、第1時のように全体で理解を深めていく場面では、まず個人で思考を深め、それを文章化してからグループでの話し合いを行うことが有効である。国立教育政策研究所の「ESDの視点に立った学習指導で重視する能力・態度」では、他者とコミュニケーションをとり、協同的に課題解決にあたる力が重視されているため、本単元では個人の時間を十分に取し、必ず一人一人が意見を持った上で話し合えるように配慮した。

また、メディアリテラシーに関する指導は以前の学習から継続してきたが、児童の中にはまだ理解が不十分な者もいる。そのため、情報を収集する際にインターネットを活用する場面では、各テーマに関連した調べやすいインターネットサイトの名称とアドレスを一覧として提供した。また、その一覧に並ぶインターネットサイトの名称を確認し、情報に信憑性の高い団体とはどのようなものかを児童に考えさせることで、個人の意見しか記述されていないインターネットサイトや、出典の不明確な情報などは鵜呑みにしないよう指導した。

5 評価規準

観点	課題発見・解決の能力	学習への主体的・創造的・協同的態度	学び方・ものの考え方	自己の生き方に関わる気付き
評価規準	日本を含む世界の現状と目指すべき姿について、SDGsと関連させて課題を設定し、探究することができる。	情報を適切に収集し、グループで協力して課題への理解を深め、解決しようとしている。	収集した情報から、選択したテーマについて自分たちが貢献できることを考えている。	自分たちや他のグループの発表から学んだことを、自分の今後の生活に生かそうとしている。
評価方法	・学習の様子 ・振り返りシート ・発表内容	・学習の様子 ・振り返りシート	・振り返りシート ・発表内容	・学習の様子 ・振り返りシート ・発表内容

6 単元の構成

時 限	小単元名	学習のねらい	授業内容
1	世界に目を向けてみよう ～目指すべき世界とは、何だろう～	【ザンビア報告会 ～同じところ、違うところ～】 ○世界には日本と文化の異なる国があることを知ること、世界に興味を持つ。	・教師海外研修参加者のザンビア共和国での視察の様子を報告を聞く。 ・衣食住などの文化や、子供を取り巻く様子を日本と比較し、共通点や相違点を考える。
2		【世界の状況を感じてみよう！】 ○世界の格差を体感し、世界各国で様々な課題があることを知る。	・世界の人口や、言語についてのクイズで、世界への関心を高める。 ・5つのグループに分かれて、世界の富の分配をお茶の量で体感する。 ・「世界がもし100人の村だったら」を読み、当てはまる数や言葉を予想する。

3		【幸せな世界ってどんな世界？ ～SDGs～】 ○自分たちの考える幸せな世界の定義を共有し、それを目指す国際的な目標(SDGs)があることを知る。	・幸せな世界とは何かを、「〇〇がある世界」「〇〇がない世界」という形で考え、意見を交流させる。 ・SDGsの17のイラストの意味を推測し、自分たちの考えた幸せな世界の定義と結びつける。
4		【SDGsについて知ろう！】 ○SDGs の概要について調べることで、世界の目指す目標を知る。	・ユニセフの提供する「学校のための持続可能な開発目標ガイド」で、SDGsの17の目標について調べ、まとめる。
5		【どうして SDGsを調べるのだろう…】 ○SDGs について知ること、世界の目指す目標を知り、探求したいと感じる対象を得る。	・教室に落ちていた鉛筆から、関連しそうな SDGsを考える。 ・自分の行動で、世界が良くなったり、悪くなったりすることを考える。 ・伝える力について考え、SDGsを調べ伝えることに目的意識を持つ。
6	調べよう！SDGs	【調べる大テーマを選択しよう！】 ○自分が興味を持ったSDGsの目標をもとに、自分の調べたい大テーマを選ぶ。 ○グループでさらに調べたい内容を話し合って考える。	・自分が興味を持った SDGsの目標を念頭に、5つの大テーマから自分が調べたい大テーマを選択。 ・同じ大テーマを選んだ中で、3～5人のグループを作り、大テーマの中でさらに調べたいテーマを話し合う。 *正しい情報を得るための調べ方を知るために、書籍や信頼性のあるインターネットサイトの活用方法を知る。
7	伝えよう！SDGs	【伝えるために調べよう！まとめよう！】 ○選択したテーマについて探求し、まとめながら発表の準備を行う。	・選択したテーマについて ①内容 ②SDGsとの関連 ③日本と世界の現状 ③取り組み例 ⑤自分達ができること を中心に調べ、発表に向けてまとめる。 ・正確な情報を収集し、ポスターに視覚的にわかりやすくまとめていく。 ・聞き手が体験的に学ぶためのアクティビティを企画し、伝えるということを意識する。 ・聞き手に伝わりやすい原稿を作成する。
8			
9			
10			
11			
12			
13			
14	伝えよう！SDGs	【クラス発表会】 ○探求したテーマについて、クラスの他の児童に伝える。 ○互いのグループの発表を聞き、様々な角度からSDGsへの理解と課題意識を養う。	・調べたテーマについて、アクティビティを交えた体験的な学びとして他の児童に伝える。 ・発表を聞いた児童は、質問をし、ふりかえりを行う。 *発表内容の完成度や発表方法の効果などに基づいて、代表グループを投票で決定する。
15			
16		【学年発表会】 ○クラス代表の発表を聞き、さらに様々な角度からSDGsへの理解と課題意識を養う。	・各クラスの代表グループが発表を行う。 ・発表を聞いた児童は、質問をし、ふりかえりを行う。

JICA 教師海外研修 授業実践報告書

17	学習のまとめ	【自分の中の変化を考えよう ～SDGsを学んで～】 ○今までの学習や他の児童の発表を振り返り、自分の変容を捉える。	・今までの学習の振り返りや、他の児童の発表への感想を見ながら、世界の課題や国際協力について、自分の意識の変化を振り返り、文章に表す。 ・今後自分が行動したいこと、意識していきたいことを改めて考える。
----	--------	---	---

7 授業事例の紹介

小单元名 【 どうして SDGsを調べるのだろう… 】

(1) 指導案

(ア)実施日時 10月17日(火) 第6限

(イ)実施会場 6年2組 教室

(ウ)本時の目標

自分たちの身近な課題から SDGsを考えていくことで、日本国内にも課題があること、自分たちの行動が世界に少しずつ影響を与えていくことを、話し合いによって捉える。

(エ)指導のポイント

思考の広がりを重視し、あらゆる可能性を考えるために、児童の発言に多少の論理の飛躍があったとしても、まずは認めること。授業後半で適宜情報の修正や追加をし、極端に間違った価値観が生まれないようにすること。

(オ)本時の展開

過程・時間	指導内容	学習活動	指導形態	指導上の留意点	評価 (評価基準・評価方法)
	・SDGsを学ぶ理由を考えるというめあてを持つこと ・1つの事象が様々なSDGsと関連していること ・日本にも多くの課題が存在していること ・それぞれに多様な考え方があり、その全てに価値があること	○前時までを振り返る。 ○本時のめあてを知る。 ○教室の折れた鉛筆の写真から、関連するSDGsを考える。 ○自分の意見をグループで交流させ、さらに多角的に関連するSDGsについて考える	個人 グループ	・多様な可能性を重視するため、多少の論理的飛躍は許容し、後に補足修正をする。 ・鉛筆になるまでの木材や、運搬の様子などの写真資料を適宜提示する。 ・後の全体での共有のため、鉛筆の写真とSDGsのアイコンを使って考えを可視化する。	SDGsの課題を身近な例から考えている。 【学習の様子】 SDGsの課題を身近な例から考えている。 【学習の様子】
	・同上	○全体で意見を交流させ、それぞれのグループの共通点や相違点などから、多様な考えを学ぶ。	全体	・グループの考えを黒板に貼り、全グループの考えを視覚化する。	

・1人の行動が、世界を良くも悪くも変えてしまう力があること ・伝える力は大きな力を持つこと	○コップの例から、些細な行動の影響力を考える。 ○本時の振り返りを書き、自分の考えたこと、思ったことを言語化する。	全体 個人	・実物を用い、感覚的な理解を促進する。 ・他のSDGsにおける小さな行動を例に挙げる。	SDGsの課題を身近な例から考えている。 【振り返り】
--	--	---------------------	--	--

(2) 授業の振り返り

<成果>

- ・教室に落ちていた折れた鉛筆という、児童の身近にある教材を取り上げたため、それがSDGsにつながっているという驚きを伴って、児童が意欲的に学習に取り組むことができた。
- ・正解がないことを強調したため、普段自分の考えに自信を持つことができない児童も、自分なりの考えを少なからず持つことができた。また、個人での思考時間の後のグループや全体での意見交換の際も、互いの意見を否定せず、多角的な視野をもって学びを深めることができた。
- ・児童それぞれが紙面上でSDGsの17のアイコンを操作し、さらに全体での共有の際も大きなアイコンを掲示して考えを視覚化したため、話し合いの流れがわかりやすく、誰もが理解することができた。

<課題と解決案>

- ・鉛筆に関する情報が不足していたため、SDGsとの関わりが推測の域を出なかった。事前に鉛筆の原材料や輸出入のデータなどを分析しておく、さらに深い学びが得られたと考えられる。もしくは補足資料の豊富な教材に変更し、携帯電話などレアメタルに関連するもの、パーム油などを原材料にするものを扱うことも有効であると考えられる。
- ・児童の話し合いの時間を確保することに重点を置いたため、振り返りの時間を多くとることができなかった。2時間構成にするなどの手立てが考えられる。
- ・1人の行動の重要性や伝える力の大きさを考えるためのコップの例が、教師主導で行われてしまった。児童が自分でそれらに気づくことができる手立てが必要。

(3) 使用教材

- ①教室に落ちていた折れた鉛筆(図工室の落とし物を使用) ②SDGsの17のアイコン(児童用・掲示用)



8 単元を通した児童生徒の反応/変化

○SDGsという新たな視点の獲得

本学級の児童は日々自主学習という形で、自分の興味のある事柄を調べノートにまとめている。9月からの本単元の学習からは、SDGsに関連する内容や、自分の調べているテーマの追加学習を行う児童が現れた。単なる学習教材としてではなく、自分たちが考え、行動する価値のあるものとして、SDGsを捉えていると考えられる。また、他教科の学習中も自らSDGsの番号を挙げ、内容の関連を発言する児童も出てきた。本単元の目標の1つであったSDGsの浸透と新たな視点の獲得が、一定の成果を上げていると考えている。また、卒業文集において本単元に触れる児童もあり、今後の生き方にも影響を与えているのではないかと考えている。

○伝えるという行為の重要性への気づき

本単元の成果の発表時には、聞き手に考えさせるようなアクティビティを取り入れることを条件とした。そのため児童はテーマについて調べるだけでなく、どうすれば相手が自主的に考えてくれるか、そのためにはどのような点に配慮して伝える必要があるかなど、授業中の教師のような立場で考えることが必要となった。このことで児童は自分たちの「伝える力」の大きさや意義について体験的に学ぶことができた。以前の総合的な学習の時間のように与えられたテーマを調べるだけでなく、その行為の意義と責任を感じながら学ぶことができたと思われる。

9 授業実践全体の成果と課題及び課題の改善策

<成果>

導入の成功

予備知識のない段階からの単元開始であったが、ザンビアでの体験記を第1時としたり、体験的に悩み、学ぶ機会を確保したため、児童の意欲的な調べ学習につなげることができた。

多角的な学びを得られるテーマ分け

児童は最初に、興味のあるSDGsを考えた。その後、「①地球の環境を守ろう ②争いのない世界を目指して ③だれもが健康に生きるために ④自分らしく、豊かな人生を ⑤世界が一つになるとき」という5つの大テーマから、児童は興味のある分野を選択した。さらにその中で小テーマを選択し、2～4人のグループで調べていったため、同じ小テーマを選択したグループ内でも、意識しているSDGsが異なったり、違うテーマを調べるグループが同じSDGsを意識していたりと、様々な角度からSDGsと世界の課題を関連付けて学ぶことができた。

アクティビティを取り入れた発表

発表の条件に、聞き手に考えさせるようなアクティビティをいれたことにより、相手に伝える工夫や、発表そのものの吟味をよく意識することができた。

<課題と解決案>

教育計画とのずれ

基となった該当単元の時数が少ないため、他の単元を圧迫した。持続可能な開発についての取り扱う場合は、年間を見通した計画が必須である。

他クラスとの連携不足

小学校において学年全体で授業を展開する場合、他の担任にSDGsに関する情報や授業プランを伝え、理解してもらうために多くの時間が必要となる(本単元では多大な理解と協力を得られた)。また、私自身の情報共有の至らなさのため、学級間で発表の完成度やSDGsへの理解度に差が生まれてしまった。単元開始前の綿密な打ち合わせと、教員自身のSDGsの深い学習が必要であった。

10 教師海外研修に参加して

教師海外研修に参加した教師は、自身の教育観を大きく揺さぶられる。訪問先の教育の現状、教育関係者の熱意、子供たちの無邪気さ。その全てから私たちは「何のために教師になったのか」という、教師人生において最も重要な問いを投げかけられる。そしてその教師が悩みぬいて作り上げた授業によって、(それが決して完璧ではないとしても)子供たちもまた大きく変化する。

本単元はザンビア共和国での教師海外研修で得た、SDGs(持続可能な開発目標)についての理解を基に構築した。第6学年の3人の担任教員で話し合いながら立案し、多くの成果を得ることができた。しかし、同時に多くの課題があったことも事実である。多くのそれらの課題の中で、私が最も解決に向けて努力したのが、「実際に見聞きし体験した者と、それを伝え聞いた者の差を埋める」ということである。これはザンビアで働くJICA関係者の言葉であり、貴重な機会を得てザンビアで学んだ私の責任とも言えることであった。いかにして子供に世界の課題を自分のことのように考えさせ、自分にできることを考えようと意欲づけするか。その点を常に考えていたように思う。

悩み多き単元であったが、私自身と児童の収穫もまた計り知れないほど多かった。ぜひ1人でも多くの教員にこの研修に参加し、大いに悩むことを通して、自分を、児童を、変えてほしいと思う。

世界には本当にたくさん人間が住んでいます。
ではそれを、100人の村に小さくしてみたら、
どうなるのでしょうか。

100人の村人のうち・・・

()人が男性で、
()人が女性です。
()人が子供で、
()人が大人です。

そのうち()人がお年寄りです。

()人が異性愛者で、
()人が同性愛者です。

()人がアジアに、
()人がアフリカに、
()人が北アメリカと南アメリカに、
()人がヨーロッパに住んでいます。

()人は中国語をしゃべり、
()人はスペイン語を、
()人は英語を、
その他の()人で
()以上の言語を使っています。

いろいろな人がいるこの村には
あなたとは違う人がたくさんいます。

相手を受け入れること、
そして理解しようとするのが、
とても大切です。

そして、この村の村人は、
様々な環境で暮らしています。
残念なことですが、
全員が平等では、決していないのです。

100人の村人のうち、

()人は栄養不足です。
そのうち()人はもう死んでしまいそうです。
しかし反対に、
()人は太りすぎとされています。

安全な水をつかえるのは()人です。
残りの()人は
汚れた水を使うしかありません。

字を読むことができるのは()人。
残りの()人は、
字を読むことができません。

屋根がある家を持っているのは()人。
残りの()人は、
屋根のない場所や路上で生活しています。

そして、
爆弾が落ちてきて大けがをしたり、
地雷をふんで手足を失ったり、
武器を持つ人々の攻撃に毎日おびえている人は、
この村に()人います。

あなたがこの文章を読んでいるということは、
あなたは、
多くの村人よりめぐまれているのかもしれませんが。
なぜならあなたは、
文字を読むことができ、
学校に通うことができ、
そして何より、生きているからです。

世界がもし100人の村だったら、
あなたは、何をしますか？

調べてみよう！ SDGs ～世界を変えるための17の目標～



目標：（ ）をなくそう

内容：地球上のあらゆる形の（ ）をなくそう。



目標：飢餓をゼロに

内容：（ ）をなくし、誰もが栄養のある（ ）を手に入れられるよう、地球の環境を守りながら（ ）を続けよう。



目標：すべての人に（ ）と（ ）を

内容：だれもが（ ）で幸せな生活を送れるようにしよう。



目標：質の高い（ ）をみんなに

内容：だれもが公平に、良い（ ）を受けられるように、また（ ）にわたって学習できる機会を広めよう。



目標：（ ）平等を実現しよう

内容：（ ）を実現し、すべての（ ）と（ ）の能力を伸ばし可能性を広げよう。



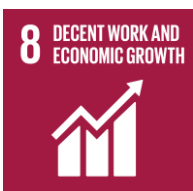
目標：安全な（ ）と（ ）を世界中に

内容：だれもが安全な（ ）と（ ）を利用できるようにし、自分たちですっと管理していけるようにする。



目標：エネルギーをみんなに そして（ ）に

内容：すべての人が、（ ）て（ ）で現代的なエネルギーをずっと利用できるようにしよう。



目標：（ ）も（ ）も

内容：みんなの生活を良くする安定した（ ）を進め、だれもが（ ）生産的な仕事ができる社会を作ろう



目標：（ ）と（ ）の基盤をつくろう
内容：災害に強い（ ）を整え、新しい技術を開発し、
みんなに役立つ安定した産業化を進めよう



目標：人や国の（ ）をなくそう
内容：世界中から（ ）を減らそう。



目標：（ ）まちづくりを
内容：だれもがずっと（ ）に暮らせて、（ ）にも強い
まちをつくろう。



目標：（ ）責任（ ）責任
内容：（ ）も（ ）も、地球の環境と人々の
健康を守れるよう、責任ある行動をとろう



目標：（ ）に具体的な対策を
内容：（ ）から地球を守るために、今すぐ行動を
起こそう



目標：（ ）の豊かさを守ろう
内容：（ ）の資源を守り、大切に使おう



目標：（ ）の豊かさも守ろう
内容：（ ）の豊かさを守り、（ ）を防いで、多様
な



目標：（ ）と（ ）をすべての人に
内容：（ ）でだれもが受け入れられ、全ての人が
（ ）や制度で守られる社会をつくろう。



目標17 パートナリープで目標を達成しよう
世界のすべての人がみんなで協力しあい、これらの目標を達成しよう。

調べてみよう！ SDGs ～世界を変えるための17の目標～



目標：

内容：



目標：

内容：



目標：

内容：



目標：

内容：



目標：

内容：



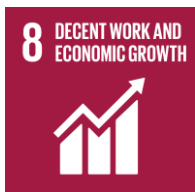
目標：

内容：



目標：

内容：



目標： **働きがいも経済成長も**

内容：みんなの生活を良くする安定した経済成長を進め、だれもが人間らしく生産的な仕事ができる社会を作ろう

メモ

*子どもの兵士をふくめた、働かなければならない子どもをなくそう



目標：産業と技術革新の基盤をつくろう

内容：災害に強いインフラを整え、新しい技術を開発し、
みんなに役立つ安定した産業化を進めよう



目標：

内容：



目標：

内容：



目標：つくる責任つかう責任

内容：生産者も消費者も、地球の環境と人々の健康を守れるよう、
責任ある行動をとろう



目標：気候変動に具体的な対策を

内容：気候変動から地球を守るために、今すぐ行動を起こそう



目標：

内容：



目標：

内容：



目標：

内容：

メモ

*インフラ：



目標 17 パートナリープで目標を達成しよう
世界のすべての人がみんなで協力しあい、これらの目標を達成しよう

伝えよう！みんなで目指すSDGs 『アクティビティについて』

アクティビティとは

どちらの授業の方が、楽しく、自分で考えて理解できそうですか？

A「先生の話だけを聞き続ける授業」

B「写真から読み取ったり、隣やグループで話し合ったり、議論したりする授業」

おそらく、Bですね。アクティビティとは、まさに2つ目にあるしかけのことです。

アクティビティ → 内容について伝えたいことを、体験してもらったり、ゲーム形式で悩ませたりすることで、『なるほど！』とか『考えよう！』と思わせるしかけ

初級アクティビティの例

クイズ	方法：重要な情報や、伝えたいことの内容をクイズにする 例）3択クイズ、○×クイズ 目的：意外な答えで、情報を印象的に伝える
多数決	方法：2、3個の選択肢を用意して、当てはまるところに手を挙げてもらう 目的：人によって色々な考え方があることを体感する
話し合い	方法：となりや、数人のグループで話し合ってもらう ＊制限時間や、何を考えるのかがはっきりわかることが重要 目的：意見を共有したり、深めたりする
フォトランゲージ	方法：写真を1枚わたして、場所や内容を予想してもらう方法 感想を聞くこともできる 目的：内容に興味をもつ。文字よりも印象的に内容を伝える

上級アクティビティの例

ロールプレイ	方法：何かの役をやってもらい、実際にその身になって考えてもらう 目的：あなたならどうする？どう感じる？と聞く
プランニング	方法：個人やグループで、何かの問題の解決方法を考えてもらう 目的：あなたならどうする？と聞く
ランキング	方法：重要だと思う順番に、いくつかの言葉や情報を、並びかえてもらう 目的：順番をつける難しさを体感する
ランキングクイズ	方法：多い順などを予想して、いくつかの言葉や情報を、並びかえてもらう 目的：意外な答えで、情報を印象的に伝える
見える化	方法：意見を決めて、当てはまる場所に名前を書いたふせんをはってもらう 目的：人によって色々な考え方があることを体感する

調査テーマ 収集ワークシート

選んだ大テーマ **地球の環境を守ろう**

調査テーマ（深く調べて、深く伝えるために、テーマをしぼりましょう）

温室効果ガス		
森林破壊		
ヒートアイランド		
クリーンエネルギー		
絶滅危惧種		

ゴミ処理問題 (陸・海)		
フードロス		

調査テーマ 収集ワークシート

選んだ大テーマ

争いのない世界を目指して

調査テーマ（深く調べて、深く伝えるために、テーマをしぼりましょう）

内戦と紛争		
原子爆弾		
テロリズム		
難民		
少年兵		

貧困街と犯罪		
人身売買		

調査テーマ 収集ワークシート

選んだ大テーマ **だれもが健康に生きるために**

調査テーマ（深く調べて、深く伝えるために、テーマをしぼりましょう）

絶対的貧困 相対的貧困		
栄養不良		
乳幼児の死亡率		
エイズ (HIV 感染症)		
ワクチン 予防接種		

麻薬・ドラッグ		
安全な飲み水		

調査テーマ 収集ワークシート

選んだ大テーマ

自分らしく、豊かな人生を

調査テーマ（深く調べて、深く伝えるために、テーマをしぼりましょう）

初等教育		
識字率		
児童労働		
男性差別 女性差別		
LGBT		

バリアフリー		
ダイバーシティ		

調査テーマ 収集ワークシート

選んだ大テーマ

世界がひとつになるとき

調査テーマ（深く調べて、深く伝えるために、テーマをしぼりましょう）

国際連合 （国連）		
NGO		
国際協力		
JICA		
姉妹都市		

市民運動		
インターネット の普及		
SNS の力		

大テーマ 地球の環境を守ろう 地球 Planet

7. クリーンエネルギー・再生可能エネルギー

- 1 1. ゴミの処理
- 1 2. 3R、フードロス
- 1 3. 温室効果ガス、排気ガス
- 1 4. 乱獲、海のゴミ、絶滅危惧種、外来種
- 1 5. 砂漠化、森林破壊、絶滅危惧種、外来種

大テーマ 争いのない世界を目指して 平和 Peace

- 1. 貧困と犯罪
- 8. 少年兵
- 1 0. 移民
- 1 2. 資源紛争（レアメタル）
- 1 6. テロリズム、内戦と紛争、難民、人身売買、選挙、言論の自由

大テーマ だれもが健康に生きるために 人間 People

- 1. 絶対的貧困（極度の貧困）と相対的貧困
- 2. 食糧不足、栄養不良、学校給食
- 3. エイズ（HIV 感染症）、ワクチン・予防接種、乳幼児の死亡率、麻薬・ドラッグ
- 6. 安全な飲み水、

大テーマ 自分らしく、豊かな人生を 豊かさ Prosperity

- 4. 平等な基礎教育、識字率、児童労働、
- 5. LGBT、男性差別と女性差別、ジェンダーフリー
- 1 0. 差別、ダイバーシティ
- 1 1. バリアフリー

大テーマ 世界がひとつになるとき パートナーシップ Partnership

- 9. インターネットの普及
- 1 7. 国際連合、NGO と NPO、ODA、姉妹都市、市民運動、SNS の力

伝えよう！みんなで目指すSDGs 『発表会について』

2学期になって初めて知った、**SDGs**（世界を変えるための17の目標）。
自分の小さな体では、解決できないほどの問題がたくさんあることに気付いた。

でも、自分にもできることはある。

調べて知ったことを、1人でも多くの人に**伝えよう**。

『私たちにもこんなことができますよ！』と**伝えよう**。

伝えた相手が次の人に伝えて…。その人がまた次の人に伝えて…。

そうやって、伝える力がまるでドミノのように広がれば、

世界はきっと、少しずつ変わるはず。

さあ、君の力で世界を変えよう！

クラス発表会

日時：2月13日（火） 5・6時間目

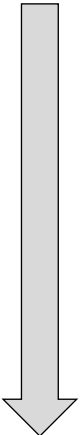
場所：各クラス

発表形式：クラス全体の前で発表

持ち時間：5分～8分（質問時間もいれて）

発表条件：① ポスターなどの見やすい資料をつかうこと

② 聞き手に考えさせる活動（アクティビティ）をいれること



各クラスで一番よい発表をしたチームが、学年代表発表会に出ることができます。
クラス発表会のときに、クラス全員の投票で代表チームを選びます。
下の4つのポイントで判断して、どこのチームに投票するかを決めます。

発表の技術

① 見やすさ（文字・図・表・写真）

② 聞きやすさ（声の大きさ・表情・目線・ジェスチャー）

発表の内容

① わかりやすさ（テーマについて・SDGsとの関わりについて）

② 提案の良さ（自分にもできそうか・効果がありそうか）

学年代表 発表会

日時：2月14日（水） 5時間目

場所：家庭科室

発表形式：学年全体の前で発表

持ち時間：クラス発表と同じ（少し長くしてもよい）

発表条件：クラス発表と同じ